

利根中央病院

第28号
2011年10月号

病院 だより

企画発行 利根中央病院地域連携室
〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1855-1
電話 0278-22-4325(直通) FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>
E-Mail master@tonehoken.or.jp

理念と方針

理念 安心と安全 参加と協同
患者中心のチーム医療

方針 救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
診療情報提供と共に作る診療計画
広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり

特集

認定看護師及びNST専門療法士紹介

外来化学療法室担当看護師 / 緩和ケア認定看護師

鈴木 真紀子

感染管理認定看護師

松井 奈美

がん化学療法看護認定看護師

関 千歳

皮膚・排泄ケア認定看護師

松本 厚子

NST専門療法士

戸丸 悟志

外来化学療法室担当看護師 緩和ケア認定看護師



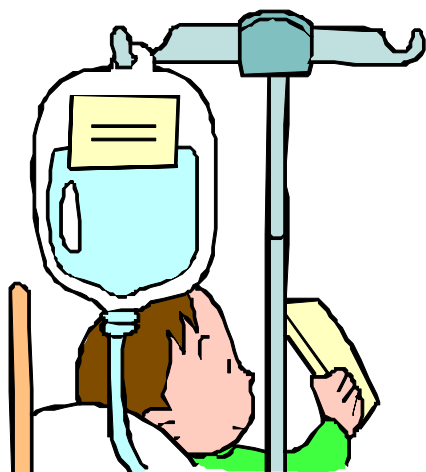
鈴木 真紀子

「抗がん剤治療は入院でやるのが当然」「抗がん剤治療は吐き気が辛く、食事も食べられなくなる。とにかく苦痛な副作用がある」と私が病棟で勤務していた時代（今から十数年前・・・）にはいわれていました。しかし、今では外来で点滴（治療）を受け、そのまま仕事へ行くことが可能になりました。

抗がん剤や副作用対策に関する薬剤が研究開発された背景の中、当院に外来化学療法室が開設されて3年が過ぎました。当初は外来通院で抗がん剤治療を受ける患者さんを対象としてきましたが、関節リウマチに対する生物学的製剤の治療や前立腺がんに対するホルモン療法を受ける方々の受け入れもはじめています。治療件数をみても、開設当初は40件/月前後であったのに対し現在では90件/月以上となっています。

当院の外来化学療法室は、「ほっとできる場所」です。これは、長年に渡り外来で抗がん剤治療を受けている患者さんからのご意見です。患者さんには、一人ひとりの背景があります。病期や治療内容、治療期間、副作用などそれぞれ違います。そして、病気に対する思いや病気との付き合い方もみなさんそれぞれ違います。そんなみなさんが「いつもの自分の生活を送りながら」安全な治療を受け

られるように努めることはもちろんですが、治療中のみならず、治療中のからだの苦痛を少しでも緩み、和ませ、ほっとできる場所を提供できるように日々奮闘しています。



感染管理認定看護師

～安心・安全な医療提供を目指し～



松井 奈美

私は、2007年6月から12月まで神奈川県立保健福祉大学実践教育センターの感染管理認定看護師教育課程で研修し、2008年に認定看護師資格を取得しました。研修終了後から院内感染対策委員会やICTのメンバーとして活動し、2010年4月より感染対策専従看護師として勤務しています。

感染管理認定看護師とは、保健医療施設における全ての人を感染から守るための知識と技術を習得し、感染管理に組織的・効果的に取り組む看護師であり、看護現場において、実践・指導・相談の3つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりや質の向上を図ることに貢献します。

現在の主な活動は、「医療関連感染を増やさない・減らす 耐性菌を作らない・拡げない アウトブレイクを発見し早期に対応すること」を目標に、医療関連感染サーベイランスの実施、院内ラウンド、感染管理教育、効果的な感染防止対策の検討・導入、職業感染管理、感染管理コンサルテーションなどを感染防止対策チームやリンクナース委員会と協力しながら実施しています。

院内感染対策で重要なことは、標準予防策の実施であり、これは全職員の実施により感染対策が成立します。その中でもやはり「手洗い（手指衛生）」が重要な位置を占めており、手軽にできますが徹底が難しい対策です。私が研修から病院に戻りまず始めたことが

手洗いの促進でした。少しずつではありますが効果が上がり速乾性アルコールジェル使用量も増加しています。今年10月を手洗いキャンペーン期間とし、職員に日常の手洗いを振り返り、正しい手洗い方法が身につくよう研修会やポスターの作製をしました。

感染対策は永遠のテーマと肝に銘じ、あきらめることなく活動していきたいと思います。今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



がん化学療法看護認定看護師



関 千歳

がん化学療法看護認定看護師は、化学療法を受ける患者様が安心して安全に確実な抗がん剤治療を受けられるように患者様とご家族、看護スタッフをサポートする役割を担っています。

現在、2階北病棟に席を置き入院患者様を中心にがん化学療法を受ける患者様やご家族に対して、治療内容や副作用の対処方法などの情報提供、また医療スタッフ側の調整や指導・抗がん剤の投与管理などを行っています。

がんの治療をうける患者様とご家族は、がんと診断された時から様々な思いを抱きながら治療に望んでいます。不安や身体的苦痛を十分理解し、その思いを受け止めながら、化学療法による副作用を最小限に抑え治療を継続できるよう取り組んでいます。

まだまだ未熟者ですが、より質の高い医療を提供していくため、関連職種との有効な連携を取りながら院内で横断的に活動していけるよう努力していきたいと思えます。

治療による悩みなど一緒に考えさせていただきますので、お気軽にご相談ください。

よろしくお願いいたします。



皮膚・排泄ケア認定看護師



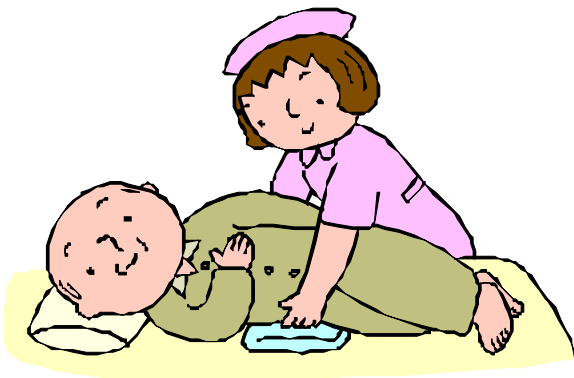
松本 厚子

皮膚・排泄ケア認定看護師となりもうすぐ半年がたとうとしています。

現在の活動は、毎週月曜日の午後にストーマ外来を予約制で行っています。ストーマトラブルの対応やセルフケア指導など時間を要する為、1人1時間枠で行っています。ストーマトラブルで紹介の患者様やストーマを造設する方も増えていることと、現在は、一人で対応していることもあり、予約内では納まりきれない場合には、臨機応変で対応しています。

ストーマケアはもちろんのこと、普段の生活の悩みなどにも耳を傾け、身体的・精神的ケアに努めています。また、毎週金曜日の午後皮膚科医師、院内褥瘡委員のメンバーと病棟の褥瘡回診をしています。褥瘡の処置をしながらマットが適正に使用されているか、ギャッチアップの方法やスキンケアの方法などの指導も行っています。月1回の褥瘡委員会では学習会を行い、褥瘡ゼロを目標に看護ケアの向上目指しています。

まだまだ未熟ですが、スキンケアに関して何かあればいつでもご相談ください。自分が学んできた知識と技術を生かし、みなさんのお役に立てるように頑張りたいと思います。



NST専門療法士 (栄養サポートチーム)

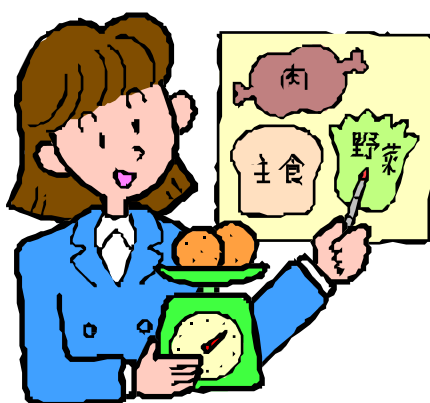


戸丸 悟志

平成22年度の診療報酬改訂により、『急性期の入院医療を行う一般病棟において、栄養障害を生じる患者』に対し、栄養改善の取り組みが行われると栄養サポートチーム加算が算定できるようになりました。当院でも昨年5月より専従看護師を設置し加算を算定してきました。

加算前は、週一回数人しか栄養療法の回診が出来ませんでしたが、専従になってからは、栄養療法に専念でき、毎日各病棟の回診・カンファランスに参加し、より多くの入院患者の栄養管理ができるようになりました。入院早期より介入することにより病状回復もよく、入院生活の質の向上にもつながっています。

病気を治すためには、栄養が大切です。今後も治療をサポートできる栄養管理をしていきたいと思えます。





妊娠15週以降から出産直前までの妊娠経過が順調な妊婦さんを対象に、マタニティヨーガが始まります。ゆっくりとした呼吸に合わせて身体を動かすマタニティヨーガは、妊娠中の腰痛や肩こり・足のつりなどの不快症状やストレスを和らげ、健やかな出産に必要な心と身体づくりに役立ちます。



日時：毎月最終週の水曜または金曜日

会場：講堂

費用：初回参加登録料として1,000円

(2回目から出産までは無料です)

申し込み・お問い合わせ先：地域連携室 内線211

こんな感じで楽しく開催しています。
ぜひ参加してください。



利根中央病院 精神科病棟

9月いっぱいまで閉鎖

利根中央病院精神科は1975年（昭和50年）に病棟を開設して以来、35年余りに亘り、利根沼田地域唯一の精神科入院施設として、多くの患者様の診療に携わってきました。総合病院の中の精神科は群馬県では群馬大学付属病院と当院のみであり、利根沼田地域はもとより全県からの入院患者様を受け入れてきた歴史があります。その存在意義はとても言葉には尽くせません。

2011年4月に常勤医師が3名から2名になり、さらに10月からは常勤医師1名、非常勤医師1名体制になることを受け、断腸の思いで精神科病棟閉鎖を決定いたしました。群馬県の保健医療計画では、精神科は基準病床数4419床、既存病床数5255床であり、836床の過剰となっています。悲しいことに、いったん閉鎖すると再び元に戻ることはできないのが実情です。

今まで、当院精神科にご指導をいただきました先生方、そして関わってきましたたくさんのスタッフの皆さま、地域の皆さま、ありがとうございました。

今後は、外来診療、精神科デイケア、訪問看護の分野で精神科患者様への診療を継続していきますので、よろしく願いいたします。

